

保健体育科学習指導案

生徒 第3学年B組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 教諭 朝倉 潤

I 単元名 E 球技:ゴール型 <バスケットボール>

II 単元について

球技<ゴール型>では、「ボール操作」と「ボールを持たない時の動き」が重視されている。特にバスケットボールにおいては、攻撃側のボール操作技術がシュートの成功確率に大きな影響を与える。また、守備側としては、守るべきゴール近辺で相手にボールを持たせないようにすることが大切であると考えられる。さらに、バスケットボールの競技特性とも言える「攻防の切り替えの速さ」も大切な学習内容だと考えられる。これらのことを身に付けさせるためには、思考・判断力を重視した学習指導を行わなければならないと考える。

III 単元の指導目標

- (1) 球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にさせ、自己の責任を果たさせること、作戦などについての話し合いに貢献しようとさせることなどや、健康・安全を確保させ、学習に自主的に取り組ませる。【運動への関心・意欲・態度】
- (2) 生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫させる。【運動についての思考・判断】
- (3) 球技の特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間との連携した動きを身に付けさせる。【運動の技能】
- (4) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解させる。【運動についての知識・理解】

IV 本単元における言語活動

チームの課題解決学習を行う。

《討論・共同》

V 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・フェアなプレイを大切にさせる。・分担した役割に責任をもって果たさせる。・チームの話し合いに責任をもってかかわらせる。	<ul style="list-style-type: none">・安定したボール操作やゴール前に空間を作り出すための非ボール保持者の動き方のポイントを見付けさせる。・チームの技術的課題やその解決に向けての有効な練習方法を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none">・ゴール前の空間に攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すための攻撃側の動きや、空間をカバーし合いながら守る守備側の動きをさせる。	<ul style="list-style-type: none">・高度な技能の名称や行い方について、学習した具体例をあげさせる。・球技の運動観察の仕方の具体例をあげさせる。・効率的なゲームの運営方法を理解させる。

VI 指導と評価の計画 (10時間扱い・・・本時8/10)

(1) 指導の計画

単元	題 材	指導目標	主な学習活動	時数	≪言語活動 系統表≫ との関連
ゴ ー ル 型 ボ ー ル 技	競技の特性と ルールについて	①バスケットボールの高度な技術の名称や行い方を理解させる。	・バスケットボールの高度な技術の名称を学ぶ。	1	【記録 ・ 伝達】
		②球技の運動観察の仕方を理解させる。	・球技の運動観察の仕方を学ぶ。		
	安定した基本的 技能を用いての 少人数ゲーム	③球技の学習に自主的に取り組ませる。	・安定したボール操作の基本練習(パス, ドリブル, シュート)	3	【記録 ・ 伝達】
		④安定したボール操作を身に付けさせる。 (守備者が守りにくいタイミングでのシュートやゴールの枠を狙ったシュート, 味方が操作しやすいパス, 守備者とボールとの間に自分の体を入れてのボールキープ)	・4人対4人での簡易ゲーム		
	特別ルールを設定してのゲーム	⑤守備者を引きつけてゴールから離れることを意識させる。	・効果的なマンツーマンディフェンスやそれに対するオフENSEの仕方を学ぶ。	3	【記録 ・ 伝達】
	⑥パスをした後に次のパスを受け取る動きを意識させる。 ⑦ボール保持者の進行方向に入らないことを意識させる。	・効果的なゾーンディフェンスやそれに対するオフENSEの仕方を学ぶ。 ・有効なボール運びの仕方を学ぶ。			
自チームの 課題解決学習	⑧チームの技術的な課題を解決するための練習や有効な練習方法を考えさせる。	・チーム練習	3	【討 論 ・ 共 同】	
正規に近いル ールでのゲーム	⑨効率的なゲームの運営方法を理解させる。	・正規に近いルールでの5人対5人でのゲーム			
学習のまとめ	⑩チームの話合いに責任をもってかかわらせる。	・リーグ戦 ・学習のまとめ	本 時 1/3		

(2) 評価の計画

観点	指導目標	評価方法	Aのキーワード・具体例	評価規準B	Cへの手だて
関心・意欲・態度	③	観察 ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> フェアなプレイの<u>大切</u>さを理解し、守らせる。 分担した役割に責任を持って<u>自主的に</u>果たさせる。 チームの話し合いに責任をもってかかわり、<u>自己の考えを述べ、他者の意見を聞き入れさせる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> フェアなプレイを大切にさせる。 分担した役割に責任を持って果たさせる。 チームの話し合いに責任をもってかかわらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> フェアなプレイとは何かを振り返らせる。 役割の種類をあげさせる。 話し合いのポイントを絞らせる。
	⑨				
	⑩				
思考・判断	⑧	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> チームの技術的な課題を解決するための有効で合理的な練習方法を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> チームの技術的な課題を解決するための有効な練習方法を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題を正しく把握しているかどうかを振り返らせる。
技 能	④	観察	<ul style="list-style-type: none"> ゴール前での攻防をより<u>優位</u>に展開するための安定したボール操作をさせる。 空間を作り出す攻撃側の<u>意図的な動き</u>をさせる。 パス後の動きやボール保持者の進行方向を妨げない動きを<u>意図的に</u>させる。 空間をカバーし合いながら守る守備側の<u>適切な動き</u>をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴール前の空間に攻防を展開するための安定したボール操作をさせる。 空間を作り出す攻撃側の動きをさせる。 パス後の動きやボール保持者の進行方向を妨げない動きを意図的にさせる。 空間をカバーし合いながら守る守備側の動きをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、ゴール前での攻防は大切なのかを振り返らせる。 攻撃をしかけるには、空間が必要であることを振り返らせる。 ボール保持者の動きと非ボール保持者の動きとの両者の関係が大切であることを考えさせる。 空間を埋めることが守備側には必要であることを考えさせる。
	⑤				
	⑥				
	⑦				
知識・理解	①	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> 高度な技術の名称や行い方について、<u>攻撃側および守備側の両者での具体例</u>をあげさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な技術の名称や行い方について、学習した具体例をあげさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ある特定の種目を取り上げ、その種目を考えさせる。
	②				

Ⅶ 生徒の実態について

本学級の生徒は、男女とも比較的球技に対する意欲の強い者が多い。球技における運動能力は平均的である。また、討論等の場面ではリーダーを中心に話し合いを進めることができる。バスケットボール部に所属していた者は、男子3名・女子2名である。

Ⅷ 本時案

1 題材 「球技<ゴール型>バスケットボール」

2 学習目標

- ・ チームの課題を把握し、その課題の解決方法が正しいかどうかを考えることができる。

【運動についての思考・判断】

3 学習の展開

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 集合・整列・挨拶をする。 ○ 本時の目標を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習目標を理解させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> チームの課題を把握し、その課題の解決方法が正しいかどうかを考えよう </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「簡易ゲーム」・「自チームの映像分析による課題の把握」・「課題解決方法の検討」・「課題解決練習」・「他チームの分析」を行う。 ○ 男女別に正規ルールに近いゲームを行う。 (各チーム2ゲームずつ行う) ○ 男女別のゲームを行う中で、他チームのゲーム分析を行う。 ○ 「自チームの映像分析による課題の把握」・「課題解決方法の検討」・「課題解決練習」・と「他チームによる自チームの分析結果」や「正規に近いルールでのゲームを終えての自チームの反省」との相違から、自チームの「課題解決方法の検討」・「課題解決練習」がふさわしい内容であったかを検証する。 ○ 自チームの課題把握と課題解決方法をワークシートに記入する。 ○ 整理運動を行う。 ○ 集合、整列、次時の学習内容を知る。。 ○ 挨拶、後片付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ゲームは簡易ルールで行わせる。 ◆ 分析には、「教科語彙」を提示する。 ◆ 課題解決方法の検討には、「種目の特性」を提示する。 ○ 簡易ルールでは、4人対4人のミニゲームを、正規に近いルールでは、5人対5人のゲームを設定する。 ◆ 課題解決練習を生かすようなゲームを展開させる。 ◆ 他チームのゲームを分析する際には、その該当チームがどのような課題を解決するためにチーム練習してきたかをくみ取るべく分析させる。 ○ 他チームによる「自チームの分析」は、客観性があることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チームの技術的な課題を捉え、その課題解決のために有効な方法を考えている。 <p style="text-align: right;">【思考・判断】 (ワークシート)</p>